

## 優しい内視鏡

消化器内科

近年、日本内視鏡学会でも「患者さんに優しい内視鏡」というテーマが大きな演題として取り上げられています。以前は、「内視鏡は苦しかろうが、患者さんの命を救えばそれでよし」という考え方が主流でありましたが、内視鏡の器械や技術の進歩とともに、「内視鏡検査時の苦痛をいかになくすか」ということも、学会で真剣に取り組まれるようになりました。

学会のガイドラインでは、「苦痛のない内視鏡」という章があり解説されています。「苦痛のない内視鏡」とは一般的に鎮静剤を用いて行うセデーション下内視鏡のことを指します。米国消化器病学会（AGA）でも、内視鏡検査が患者の利益と安全につながるよう最大な努力をすることが、内視鏡医の義務であると明記されています。そしてこの利益とは正確かつ、安全な内視鏡診断・治療を供与すべきであるという意味以外に、患者は苦痛のない楽な検査を享受する権利があるという意味も含まれると記載されており、日本でも次第に普及しつつあります。

国吉 宣俊 さん  
国吉病院 院長

